

2021 年度実施概要

学校名

那智勝浦町立下里小学校

採択活動名

もともとも、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. うみの生きものを知ろう	1・2年	国語・生活・図工
2. くじらの博物館へ行こう	3・4年	理科・総合
3. 養殖・栽培漁業体験学習 「ウナギの稚魚について学ぼう」 「クロマグロの完全養殖について知ろう」	5・6年	国語・社会・理科・総合

取り組みの概要

本校は、児童数75名（家庭数58）の小規模校である。校区は海岸線に面し、漁港、養殖場、海水浴場、磯場、ウミガメが産卵する砂浜を有し、学校近くを太田川、日本一短い川「ぶつぶつ川」が流れる恵まれた自然環境の中にある。そうした環境の中で、生命の多様性、地元の産業を理解すると共に、体験学習を通して海洋への関心と理解を高め、未来の地域・社会を担う人の育成を目指す取組を、本校の教育活動の特色の1つとして推進している。

コロナ禍にあっても、育みたい資質・能力・態度は変えず、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4観点を柱とし、出来る範囲内で工夫を凝らしての活動とした。国語科、社会科、理科、生活科、図工科、総合的な学習の時間と関連させ、主体性と表現力の育成を目指した。取組を進めるに当たっては、これまでの成果を基に地域の自然環境を最大限に活用し、子どもたちが様々な体験学習を行うことを全学年の共通項目とした。小規模校の特性を生かして、低・中・高と2学年単位で取り組み、授業者が協議しながら計画を進め、円滑に実践できる体制を今年度も継続した。

特に、低学年では「見る」「触れる」などの感覚的な体験に加え、国語科との関連を図り、「調べて書く」ことにも取り組んだ。中学年ではここ数年、太地くじらの博物館の協力により、固定したカリキュラムを継続的に学習できる機会に恵まれている。今年度も、「見る」「触れる」「聞く・話す」「書く」という知識の習得や理解に重点を置いた学習の展開を計画したが、学習の成果を発信することにおいて十分でないところがあった。高学年では、教科との関連を重視し、地域の水産業の特色でもある栽培・養殖漁業に焦点を当て取り組んだ結果、教科学習の理解に深まりがあり、水産資源を守るために環境保全が大切であることに気づくことができた。また、高学年でカヤック体験を実施したことは、地域の豊かな自然環境への関心を高めるよい活動となった。

今年度も、活動の中止、縮小、変更が再三あり、本来目指していたところに到達できなかった反省が残るが、制限のある中でも、児童は生き生きと活動し、海洋の時間を楽しみに学習している。また、新たなカリキュラム開発において地域の施設の活用など、指導者にとっても気付きの多い1年であった。

活動中の写真

うみの生きものを知ろう（1・2年生）



養殖・栽培漁業体験学習

5年「ウナギの稚魚について学ぼう」

6年「クロマグロの完全養殖について知ろう」



シーカヤック体験（5年生）

